

第3章 結果の考察

結果の考察

企画政策部企画政策課

今回の調査では、本市の強みや弱み等を把握し、今後のまちづくりを進めていくための基礎資料として活用することを目的に、子育て世代を中心に、移転（転入出）のきっかけ、移転先を決定した理由、本市に対する印象などについて伺いました。

このアンケート調査により、次のことが明らかになりました。

- 1 転入の全体的な傾向
- 2 子どもの有無別の転入の傾向
- 3 転出者のUターン意向、転入者の本市との関わり
- 4 良かったところ、悪かったところの前回調査との比較
- 5 平塚市の強み、弱み

1 転入の全体的な傾向

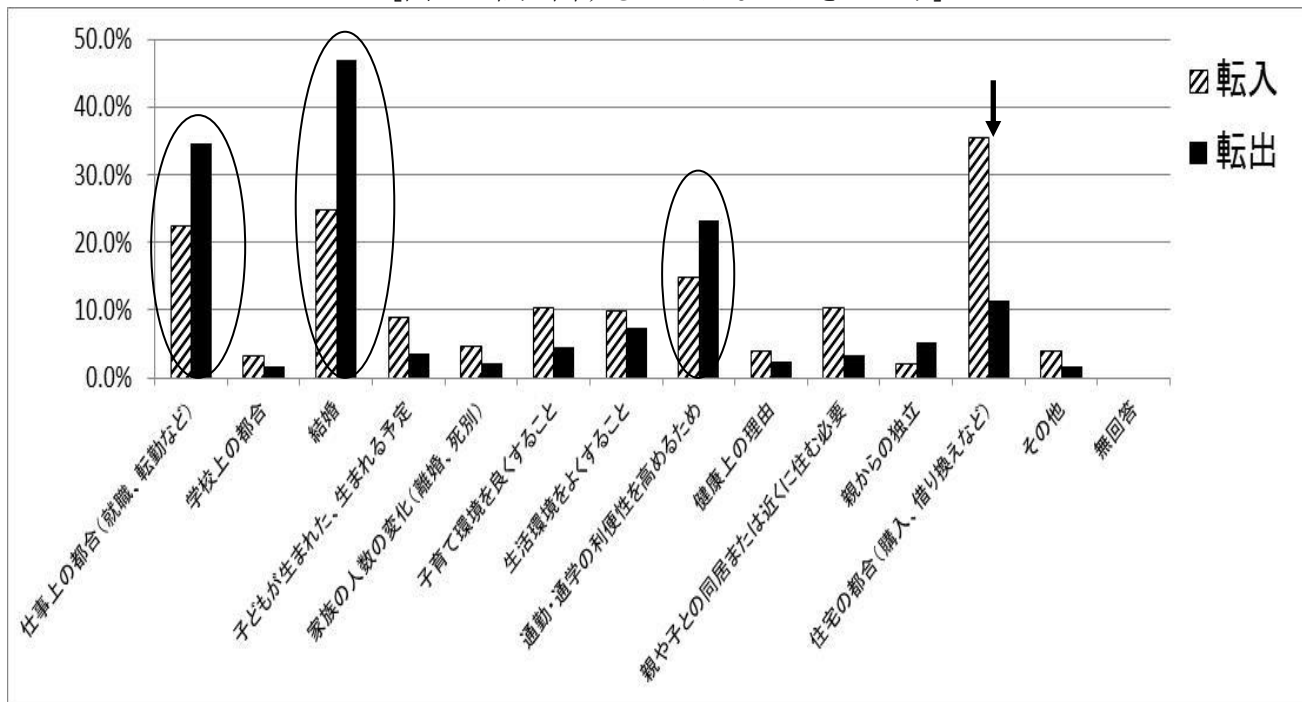
(1) 転入出することになったきっかけ

転入出の全体的な傾向として、転入の主なきっかけは、「住宅の都合」、「結婚」、「仕事上の都合」であり、転出の主なきっかけは、「結婚」、「仕事上の都合」、「通勤・通学の利便性」となっている。

また、「仕事上の都合」、「結婚」、「通勤・通学の利便性」は、転出のきっかけとして、転入のきっかけよりも特に高い割合を示している。【図1の○囲み部分】

一方、「住宅の都合」では、転入のきっかけとして、転出のきっかけよりも特に高い割合を示している。【図1の↓部分】

[図1 転入出することになったきっかけ]



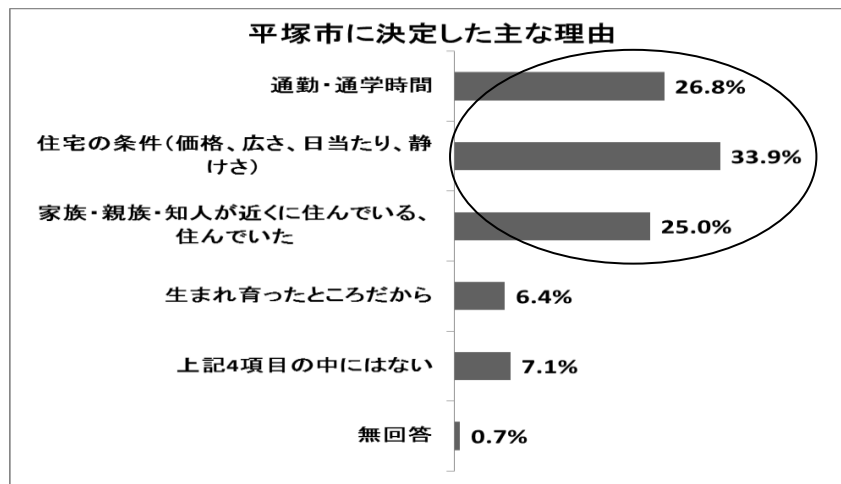
結果の考察

(2) 転入先を決めた主な理由

転入先を決めた主な理由は、「通勤・通学時間」、「住宅の条件」、「家族・親族・知人が（近くに）住んでいる」、「生まれ育ったところだから」の3つの理由が85%以上を占めている。

また、本設問で、「上記4項目の中にはない」と回答した方の主な転入先の決定理由は、「趣味の都合のため」、「静かそうな街の雰囲気のため」、「海と田園風景に惹かれたため」、「買い物の利便性」などがあつた。

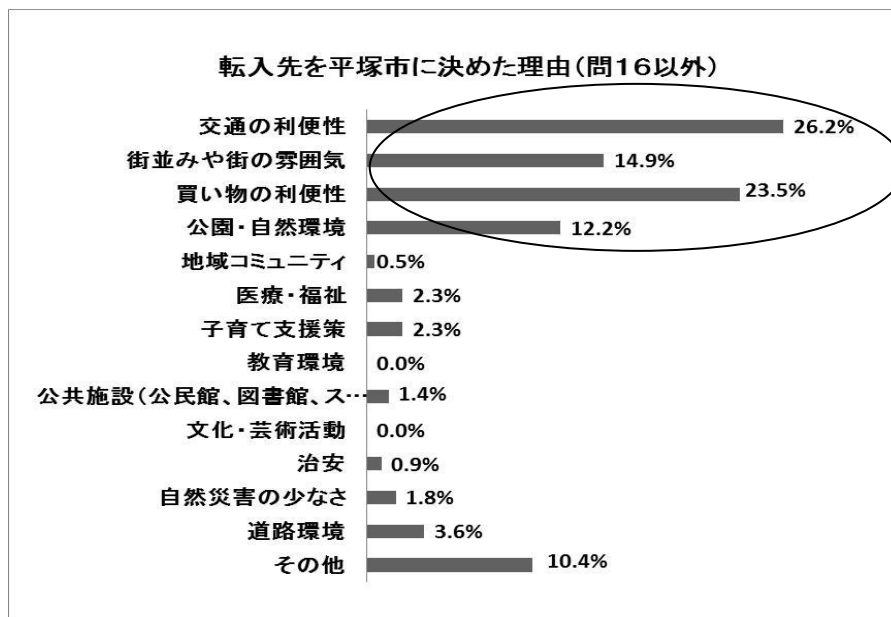
[図2 転入先を決めた主な理由]



(3) その他の転入先の決定理由

上記以外の転入先の決定理由としては、「交通の利便性」、「買い物の利便性」、「街並みや街の雰囲気」、「公園・自然環境」の4つの理由が76%以上を占めている。

[図3 転入先の決定理由]



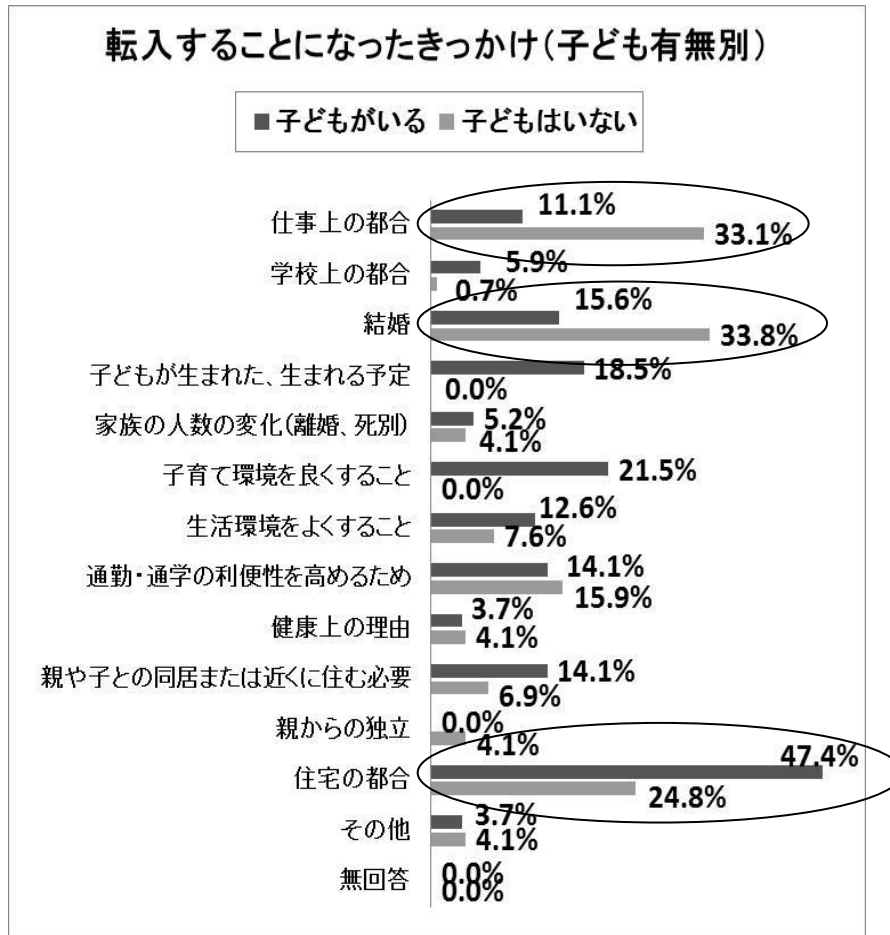
2 子どもの有無別の転入の傾向

(1) 転入することになったきっかけ（子ども有無別）

子どもの有無別で本市に転入することになったきっかけをみると、子どもがいる方は「住宅の都合」が最も高くなっており、子どもの有無による差は22.6ポイントとなっている。

また、子どもがいない方は、「結婚」、「仕事上の都合」が高くなっており、「仕事上の都合」の子どもの有無による差は、22.0ポイントとなっている。

[図4 転入することになったきっかけ（子ども有無別）]

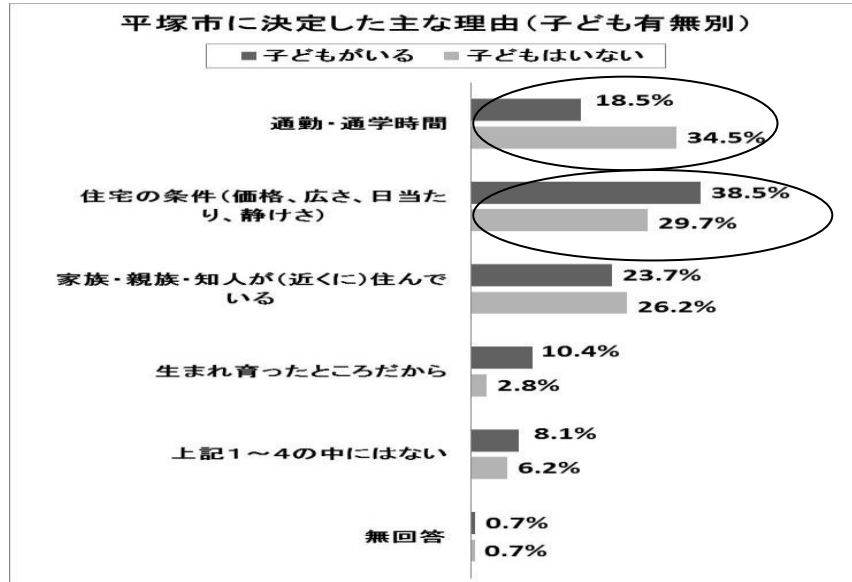


結果の考察

(2) 転入先を決めた主な理由（子ども有無別）

上記以外の転入先の決定理由を子どもの有無別で見ると、子どもがいる方は「住宅の条件」を、子どもがいない方は、「通勤・通学時間」を本市への転入の主たる理由としている割合が特に高い。

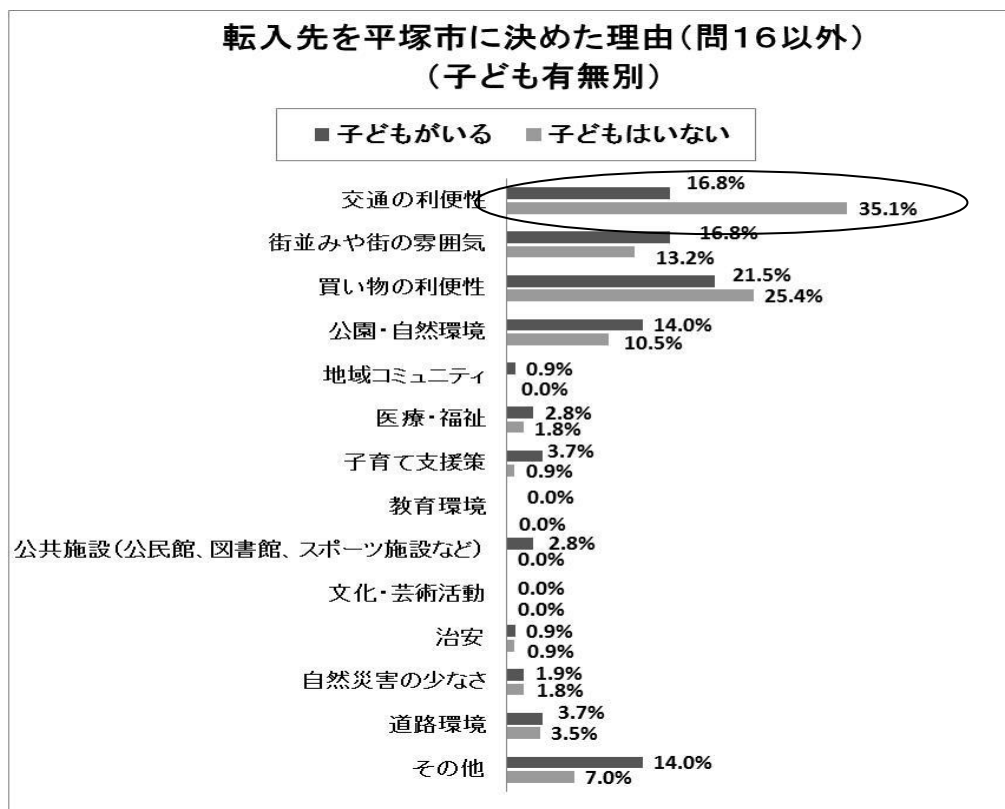
[図5 転入先の主な決定理由（子ども有無別）]



(3) その他の転入先の決定理由（子ども有無別）

上記以外の主ではない転入先決定理由を子どもの有無別で見ると、子どもはいる方は、「交通の利便性」を理由としている割合が特に高く、子どもの有無による差は、18.3ポイントとなっている。

[図6 転入先の決定理由（子ども有無別）]

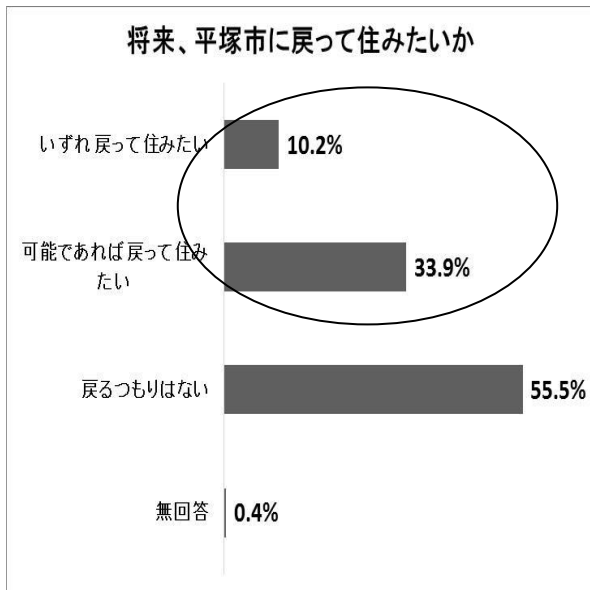


3 転出者のUターン意向、転入者の本市との関わり

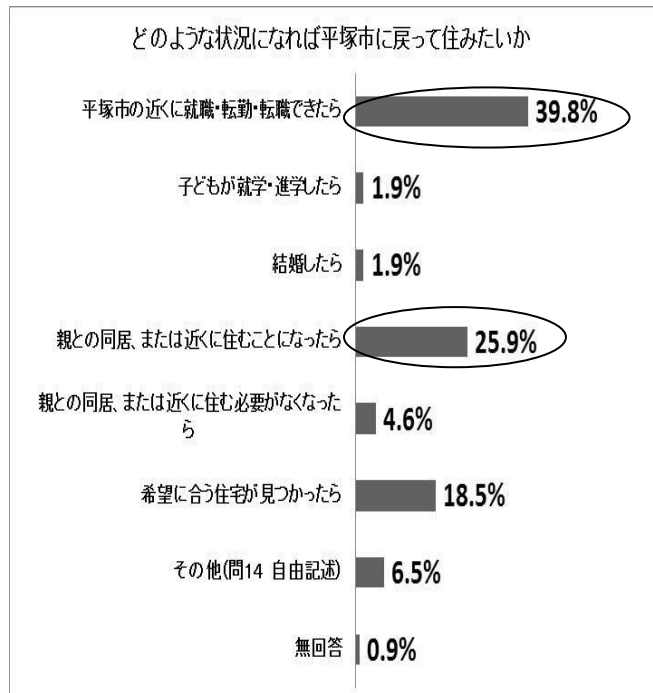
(1) 転出者のUターン意向

転出者の44.1%の方が、事情が許せば本市に戻って住みたいと考えている。その中の約40%の方が、平塚市もしくは平塚市の近くで仕事をする事ができれば本市に戻って住みたい、約26%の方が親との同居や近居により本市に戻って住みたいと回答している。このことから、子育て世代のUターン者の促進という観点からも、魅力的でかつ安定した雇用機会の確保を図ることが重要と考えられる。

[図7 本市へのUターン意向]



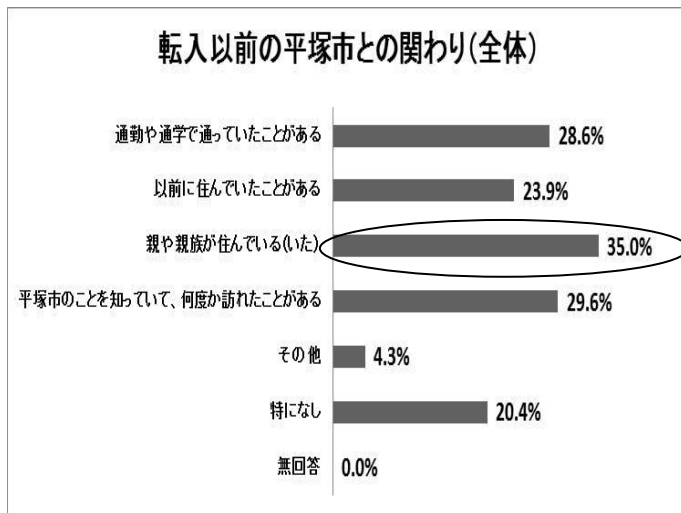
[図8 どんな状況になればUターンするか]



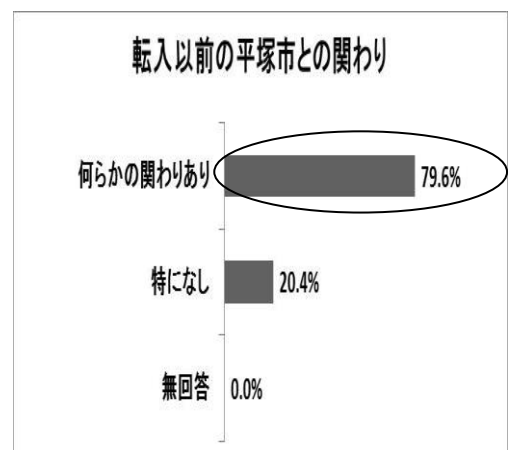
(2) 転入者からみる本市との関わり

転入した方の本市との関わりをみると、「親や親族が住んでいる」が35.0%で最も高く、また、その他の選択肢と合わせ本市と何らかの関わりがあった方は全体の約8割にのぼる。

[図9 転入以前の本市との関わり (項目別)]



[図10 転入以前の本市との関わり有無]



(3) 転出者のUターン意向、転入者の本市との関わりと転入への影響

前述のとおり、本人もしくは配偶者の家族・親族などが住んでいることが、本市へのUターンや転入の決定に大きな影響を与えていると考えられる。また、転入者の転入前の本市との関わりで、「以前に住んでいたことがある」方は23.9%、転入の主な決定理由として、「生まれ育ったところだから」が6.9%と、家族など人とのつながりの他に、住み慣れた土地ということも、居住先の決定に少なからず影響を与えていると考えられる。

これらのことや、本市に転入した方の約8割は、本市と何らかの関わりがあったことから、過去に本市に居住していて転出した方や、通勤通学で本市に通っていた方、また、本市に家族などのつながりがある市外に居住している方に対して、「結婚」、「仕事」、「住宅の都合」などをきっかけとして、本市に転入してもらえるような情報発信や、集客力のあるイベント等を行い、本市を訪れたことがある人を増やすことも、転入促進の面から必要であると考えられる。

4 良かったところ、悪かったところの前回調査との比較

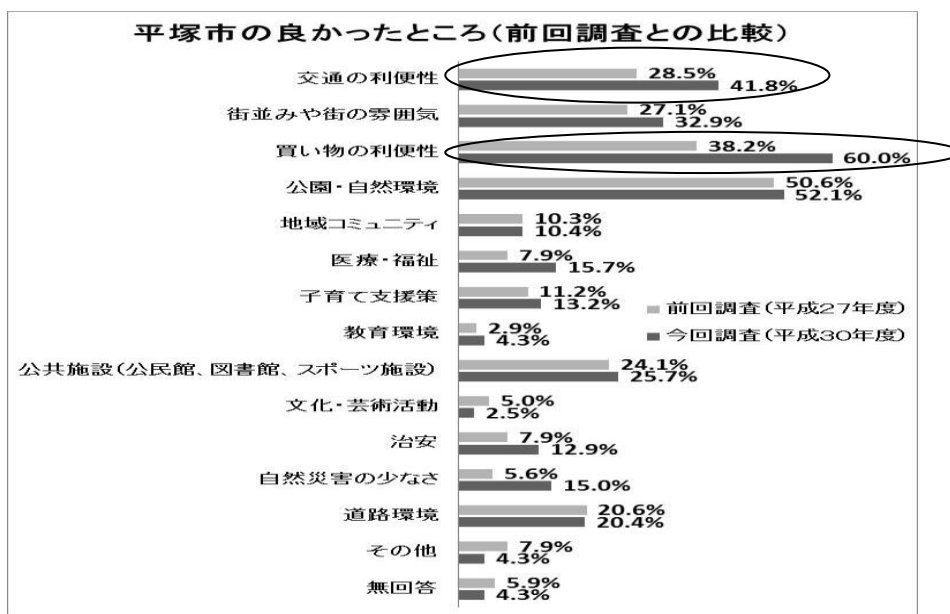
(1) 本市の良かったところの前回調査との比較

平成27年度の前回調査と比較すると、傾向は大きく変わらないが、転入者については、「交通の利便性」が28.5%から41.8%に、「買い物の利便性」が38.2%から60.0%に、それぞれ大きく上昇している。また、転出者については、「交通の利便性」が31.2%から37.6%に上昇している。

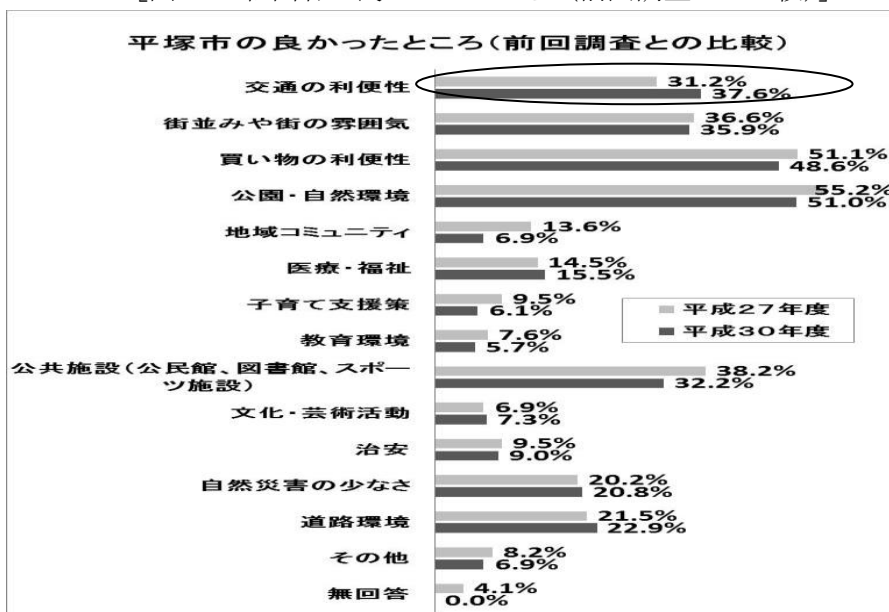
「交通の利便性」は、圏央道等の高速道路のインターチェンジが近いことや、都内や横浜まで電車一本で通うことができること等が自由記述で挙げられていた。

「買い物の利便性」は、天沼地区の大型商業施設やスーパー、ドラッグストアの新規出店等が要因と考えられる。実際に、自由記述には大型商業施設が複数あり、買い物に便利であるという意見が多く、また、転入者の自由記述では、実際に住んでみて、想像以上にスーパー等が多くて便利という意見が多かったことから、特に転入者における割合が高くなったと考えられる。

[図 11 転入者の良かったところ (前回調査との比較)]



[図 12 転出者の良かったところ (前回調査との比較)]



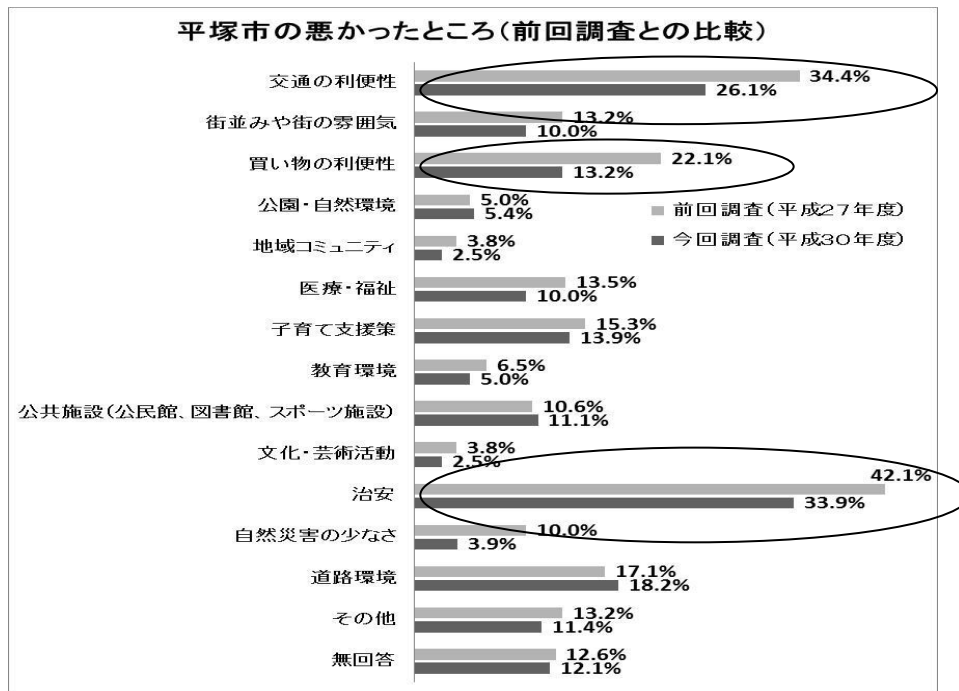
結果の考察

(2) 本市の悪かったところの前回調査との比較

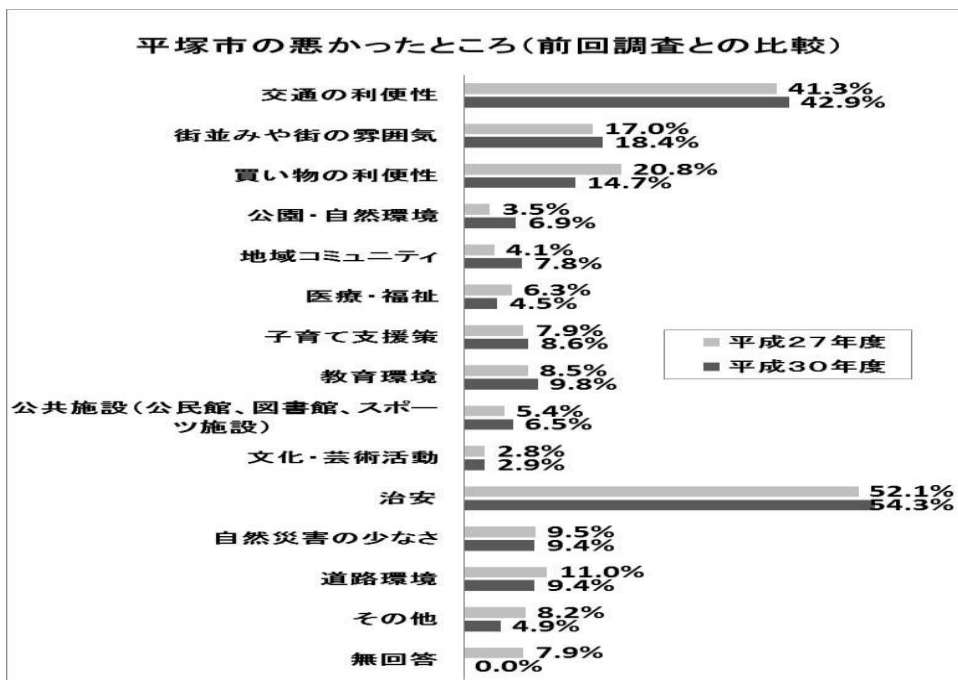
悪かったところも大きく傾向は変わらないが、転入者の「交通の利便性」、「買い物の利便性」については、前述のとおり良かったところの割合が前回調査と比較すると高くなっており、そのことが裏付けられるように、「交通の利便性」が34.4%から26.1%に、「買い物の利便性」が22.1%から13.2%に、それぞれ減少している。

また、本市の弱みとなっている「治安」についても、平成27年度の前回調査と比較すると、転入者については、42.1%から33.9%に減少している。自由記述をみると、「イメージや聞いていたよりも治安が良い」等の意見も多く、本市に住んで生活してみることで、治安に対するイメージが変わったと考えられる。

[図13 転入者の悪かったところ(前回調査との比較)]



[図14 転出者の悪かったところ(前回調査との比較)]



5 平塚市の強み、弱み

(1) 本市の「良かったところ」と「悪かったところ」の転入者・転出者の評価

[表1 転入者]

	転入者	良い		悪い		差
	選択肢	割合	順位	割合	順位	
平塚市の 良いところ・ 悪いところ	交通の利便性	41.8%	3	26.1%	2	15.7%
	街並みや街の雰囲気	32.9%	4	10.0%	9	22.9%
	買い物の利便性	60.0%	1	13.2%	5	46.8%
	公園・自然環境	52.1%	2	5.4%	11	46.7%
	地域コミュニティ	10.4%	11	2.5%	14	7.9%
	医療・福祉	15.7%	7	10.0%	9	5.7%
	子育て支援策	13.2%	9	13.9%	4	-0.7%
	教育環境	4.3%	12	5.0%	12	-0.7%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	25.7%	5	11.1%	8	14.6%
	文化・芸術活動	2.5%	15	2.5%	14	0.0%
	治安	12.9%	10	33.9%	1	-21.0%
	自然災害の少なさ	15.0%	8	3.9%	13	11.1%
	道路環境	20.4%	6	18.2%	3	2.2%
	その他	4.3%	12	11.4%	7	-7.1%
	無回答	4.3%	12	12.1%	6	-7.8%
	計	-	-	-	-	-

[表2 転出者]

	転出者	良い		悪い		差
	選択肢	割合	順位	割合	順位	
平塚市の 良いところ・ 悪いところ	交通の利便性	37.6%	3	42.9%	2	-5.3%
	街並みや街の雰囲気	35.9%	4	18.4%	3	17.5%
	買い物の利便性	48.6%	2	14.7%	4	33.9%
	公園・自然環境	51.0%	1	6.9%	10	44.1%
	地域コミュニティ	6.9%	11	7.8%	9	-0.9%
	医療・福祉	15.5%	8	4.5%	13	11.0%
	子育て支援策	6.1%	13	8.6%	8	-2.5%
	教育環境	5.7%	14	9.8%	5	-4.1%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	32.2%	5	6.5%	11	25.7%
	文化・芸術活動	7.3%	10	2.9%	14	4.4%
	治安	9.0%	9	54.3%	1	-45.3%
	自然災害の少なさ	20.8%	7	9.4%	6	11.4%
	道路環境	22.9%	6	9.4%	6	13.5%
	その他	6.9%	11	4.9%	12	2.0%
	無回答	0.0%	15	0.0%	15	0.0%
	計	-	-	-	-	-

(2) 本市の強み

表1及び表2のとおり、回答割合の差からみると、転入者は「買い物の利便性」、「公園・自然環境」が特に高い評価であり、転出者も、「買い物の利便性」、「公園・自然環境」が特に高い評価となっている。

また、「転入先を平塚市に決定した理由」においても、「公園・自然環境」は比較的高い割合であることから、本市が持つ資源である「公園・自然環境」は子育て世代にとって、一定程度、転入の促進に寄与するとともに、転出抑制の効果も期待される。

こうしたことから、子育て世代を対象としたイベントなどを行うことにより、市内外に本市のアピールポイントの1つとして「公園・自然環境」を効果的に発信していくとともに、市民等が本市の資源に触れる機会を増やし、愛着を深めていくことが重要であると考えられる。

(3) 本市の弱み

表1及び表2のとおり、回答割合の差からみると、転入者・転出者ともに「治安」が特に高い割合となっている。理由としては、報道や伝聞などからのイメージや軽犯罪にあったなどの実体験等が自由記述で挙げられていた。治安に対するマイナスイメージの払しょくとともに、犯罪が起きにくい環境づくりが求められていることが分かる。

また、転入者・転出者ともに、「交通の利便性」を「良かったところ」と評価する割合が高い一方、「悪かったところ」と評価する割合も高かったことから、居住地やライフスタイル等によって、差異があることが推測できる。このことから、さらなる調査・分析を行い、地域特性に応じた公共交通のサービスレベルの維持・改善を図ることで、転入促進と転出抑制の両側面につながると考えられる。